

〔古今著聞集十六 興言 利口〕治部卿兼定滋野井の泉にて納涼せられけるに、増圓法眼その座につらなりけり、盃酌のあるだ、治部卿さぶらひむまの允なにがしとかやいひける老たる者、香のひた、れのしほれたるをきて、庭弱の體にて、物くひて居たりけるが、衰老のものにて、歯もなくてくひわづらひたるを見て、増圓連歌をしける。

老むまは草くふべくもなかりけり、治部卿いげ興ある句なりとて、とよみの、しるを馬のかみ聞いて、

おもづらはげて野はなちにせんと付たりけるに、満座にがりけり、かやうの荒言はよくくひかふべき事也、

〔太平記二十九〕將軍上洛事附阿保秋山河原軍事

桃井ガ扇一揆ノ中ヨリ、長七尺計ナル男ノ、ヒゲ黒ニ血眼ナルガ略申只一騎河原面ニ進出テ、高聲ニ申ケルハ、戰場ニ臨ム人毎ニ討死ヲ不志云者ナシ、然共今日ノ合戰ニハ、光政殊更死ヲ輕ジテ、日來ノ廣言ヲ、ゲニモト人ニ云レント存也。略下

〔陰徳太平記三〕有田合戰附元繁戰死之事

元就利毛逃ル敵ニ目ナ掛ソ、武田ガ旗本ヘ懸レト下知シ給ヘバ、丹比勢前後一千餘騎、一備ニ成テ攻近付元繁田是ヲ見テ、元就昨日今日初テ戰場ニ被出シニハ、拔群ノ行迹哉、行末ハ如何ナル名將トカナラン、可惜若者ヲ、吾鋒先ニ掛シコソ不便ナレト、荒言吐テ真先ニ被進ケレバ略下

〔伊呂波字類抄波音〕放言

〔書言字考節用集八言辭〕放言

〔江談抄四〕鷹鳩不變三春眼

鹿馬可迷二世情以言

此句依恨暗漢雲之子細、叡感條一之餘擬補藏人、雖然入道殿道藤原并殿上人不承引之故不補、仍